

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病害虫防除室
Tel	0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成25年農作物病害虫発生予察予報第4号

6月の気象概況

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並み、降水量は平年並または高い確率ともに40%です。

【水稻関係】

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：全般発生開始期は平年並みの6月6半旬。

被害程度：少発、ただし山間、山沿いの常発地では中発

発生量：平年より少なく、前年より多い。

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 5月中旬移植コシヒカリ栽培や直播栽培では5月上旬移植に比べ、葉いもちが多発しやすいので的確に防除する。

(2) 圃場に放置されている補植用苗は、葉いもちの伝染源となるため早急に除去する。除去した苗は畦畔に放置せず、土中に埋める。

(3) 葉いもちの常発地など葉いもちが多発生する恐れのある圃場では、6月10日までに必ず予防剤を施用する。施用時期が遅れると、防除効果が劣るので注意する。施用は湛水状態で行い、自然落水させる。施用後1週間程度はかけ流しをしない。

(4) 粉剤や液剤での防除は、全般発生開始期の7日後が防除適期となる。防除時期が遅れると効果が劣るので注意する。薬剤を散布した圃場でも、新たに病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。

(5) 苗箱処理剤や粒剤を施用した圃場では、基本的には防除の必要はないが、発生が見られた場合は、直ちに粉剤または液剤で防除する。

(6) 前年までイクヒカリでの発病は確認されていないため、イクヒカリに対する葉いもち防除は必要ないが、発生が認められた場合は直ちに防除する。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

発生時期：初発は平年並みの6月6半旬。

被害程度：少発（局中発）

発生量：平年より少なく、前年並み。

2 防除対策および防除上の注意点

（1）前年発生が多かった圃場では発生しやすいので、粒剤で防除する。薬剤により散布時期が異なるので注意する。また、ハナエチゼン多発圃場では発病に伴い被害が大きくなるので防除する。

（2）茎数が多くなると発病に好適となるので、中干しを行い、過剰分けつを抑える。

病害虫名 ニカメイガ

1 予報内容

発生時期：成虫発生最盛期は平年より遅い6月1半旬頃。加害初期は6月3半旬頃。

被害程度：少発、局多発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2 防除対策

（1）常発地では発生が多くなるので地域全体での防除を図る。

（2）防除適期は粉剤および液剤は6月10～15日頃、粒剤はやや早めの6月5日頃である。

病害虫名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：幼虫の発生最盛期は平年並みの6月5半旬頃。

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2 防除対策

（1）直播栽培で被害が大きくなる恐れがあるので注意する。

（2）中干しを徹底し、幼虫の発生を抑制する。

（3）箱施薬をしていない場合、最盛期の成虫密度が30頭/100株以上であるか、箱施薬をした場合でも80頭/100株以上であるならば、6月上旬に粒剤を散布する。散布後は1週間程度湛水する。

病害虫名 イネクビホソハマシ（イネドロオイムシ）

1 予報内容

発生時期：ふ化最盛期は6月3半旬頃、被害最盛期は6月4半旬頃で平年並み。

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い。

2 防除対策

（1）発生が多い場合は、ふ化最盛期の6月上旬に薬剤を散布する。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は平年並みの6月2半旬頃。

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い。

2 防除対策

（1）箱施薬をしていない場合、被害が大きくなる恐れがあるので注意する。

（2）直播栽培は被害を受けやすいので注意する。

（3）深水を避け、産卵場所となる流れ葉を減らす。

[ダイズ関係]

病害虫名 紫斑病

- 1 予報内容
 - 被害程度：少発、局中発
 - 発 生 量：平年並み、前年より多い。
- 2 防除対策および防除上の注意点
 - (1) 健全な種子を使用し、播種前に種子消毒を行う。
 - (2) 発病した株は早期に抜き取る。

病害虫名 茎疫病

- 1 予報内容
 - 被害程度：少発、局中発
 - 発 生 量：平年よりやや多く、前年より多い。
- 2 防除対策および防除上の注意点
 - (1) 前年発生した圃場では連作を行わない。
 - (2) 溝切り、補助暗渠の施工、培土など圃場の排水促進に努める。
 - (3) 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
 - (4) 発病した株は早期に抜き取る。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
トマト	疫病	初発： 6月下旬	少発	平年：少 前年：やや多	1)排水をよくし、敷きわらをする。 2)窒素肥料を多用しない。
	青枯病		少発 (局多発)	平年：多 前年：やや多	1)排水をよくし、灌水を少なめにする。 2)敷きわらを厚くし、地温が上がらないようにする。 3)発病株は早期に除去する。
	葉かび病		少発 (局中発)	平年：やや少 前年：多	1)過度の灌水を避け、多湿にならないようにする。 2)葉裏にもよくかかるようにする。
	灰色かび病		少発 (局中発)	平年：やや少 前年：多	1)通風をよくし、多湿を避ける。 2)同一薬剤は連用せず、ローテーション散布する。
キュウリ	うどんこ病		少発 (局中発)	平年：多 前年：やや少	1)多肥栽培しない。 2) 同一薬剤は連用せず、ローテーション散布する。
	べと病		少発 (局中発)	平年：多 前年：多	1)排水をよくし、敷きわらを行い、通風、採光をよくする。 2)肥料切れを避ける。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
スイカ	炭疽病	初発： 6月中旬	少発 (局中発)	平年：多 前年：並み	1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。
	つる枯病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)通風、排水をよくし、敷きわらを十分ににする。 2)多湿を避ける。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。
	疫病	初発： 6月下旬	少発 (局多発)	平年：並み 前年：やや多	1)排水をよくする。 2)予防散布を行う。
ネギ	さび病		少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	1)肥料不足や窒素過多にならないようにする。
バレイショ	疫病		少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	1)予防散布を行う。
全般	アブラムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：少	1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ヨトウムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ネキリムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発 (局多発)	平年：やや多 前年：多	1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。
ウリ類	ウリハムシ	成虫加害盛期： 6月上旬 幼虫加害盛期： 6月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。
アブラナ科野菜	モンシロチョウ		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物による薬剤が異なるので注意する。
トマト ナス ピーマン	オオタバコガ	加害初期： 6月上旬	少発	平年：並み 前年：並み	1)果実に食入するため、加害初期の若齢幼虫期に防除を徹底する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：多	1) 同一系統の薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	黒斑病		少発	平年：少 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	赤星病		少発	平年：少 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	白さび病		少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統の薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。
	オオタバコガ	初発期： 6月上旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統の薬剤の連用を避ける。